

授業科目名 <英訳>	中国古代史の資料に触れる An Introduction to Historical Materials in Ancient China			担当者氏名	人文科学研究所 助教 土口 史記				
群	拡大群	系列	人社系	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナル
開講期	前期	受講定員	4人	配当学年	1回生	対象学生	全学向		
曜時限	火5			教室	人文科学研究所附属東アジア人文情報学研究センター(人文科学研究所北白川分館)・土口研究室				
キーワード	中国史 / 古代史 / 東洋史 / 歴史学 / 資料								

[授業の概要・目的]

我々は普段どのようにして「歴史」に触れているだろうか。高校の世界史科目にしる一般向け概説書にしる、日常的に触れるものに限ってみると、そこに見られる「歴史」とは研究者が一次資料を読解した編集した結果として提示されたものがほとんどである。魚の切り身しかみたことのない子どもは、切り身が海中を泳いでいるものと想像してしまうという。歴史と資料の関係も同じく、編集加工を経たいわば調理済みの「歴史」から、生のままの「資料」の姿を想像することは難しい。

しかし、資料のないところに歴史研究はありえない。お客様として調理済みの「歴史」だけを賞味するのではなく、料理人と同じ側に立って生の資料の姿に触れてみる、すると、調理の仕方はただ一つではないということ、しかし既成のバイアスから逃れるのは口で言う程に簡単ではないということがいささかなりとも感じ取れるであろう。

以上の主旨のもと、本授業では中国古代史研究の現状とその背景となっている資料状況について講じ、また受講生自身が選んだ任意の資料を読解する。

一次資料を読むという、歴史研究において最も基礎的な作業を受講生自らがおこなうことによって、資料読解の手法やそのためのツールについて把握し、さらには我々が一般に触れている歴史解釈・歴史観・歴史理論などが一次資料の集積と加工の結果に他ならないということを実感してもらうこと、それが本授業の目的である。

[授業計画と内容]

1～4週目：オリエンテーション

中国古代史の現状と資料概況について紹介する。実際の資料を数点とりあげ、教員が読解する。読解にあたり、語義や出典をどのように調べるのか、工具書や図書館等をいかに利用するのかについても簡単に解説したい。

5～14週目：発表と議論

受講生には自由な興味感心に基づいて中国史上の資料を選択してもらい、教員と相談してそのうちの一部を定め、予習のうえでその読解を発表する。これに対して教員が補充・解説を加え、他の受講生に対しても意見を求める。1人につき2～3回の発表を担当してもらうこととする(分担回数は受講生の人数に応じて確定する)。

[履修制限の方法]

受講定員を超える受講申込があった場合は無作為に抽選を行います。

[履修要件]

特になし

中国古代史の資料に触れる(2)

[成績評価の方法・基準]

出席点、及び担当した発表の内容により評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)]

歴史研究の実態に興味のある受講生を対象とするが、単純に中国古代史への関心がありさえすれば構わない。資料を読むためには漢文や現代中国語の知識がいずれ不可欠となるが、本ゼミではその履修歴を問わない。ただし、発表のためには図書館等を利用した予習が必須であり、歴史研究者が普段おこなうのと同種の作業を自分自身で体験することが本授業の重点であるということに留意されたい。